

「教育プログラムの評価・改善に関する実態調査」結果報告

徳島大学 F D委員会

1. 調査主旨・概要

本調査は、各学部等で行われている教育プログラムの評価・改善に関する課題やニーズを把握し、挙げられた課題やニーズに応じて、全学的な支援及び情報提供、組織間の連携等を行うことを目的とし、各学部等のプログラム評価委員会を対象に実施した。

大学教育委員会の協力を得て2020年7月22日～9月30日を回答期間とし、各学部等（医学部薬学部は学科）のプログラム評価委員会に依頼し、理工学部は各コースから合わせて17学部等全てから回答を得た。

2. 結果まとめ

各学部等の設問に対するすべての回答結果は2頁以降に掲載している。これらの結果から、全体として次の点が明らかになった。

- 現在実施しているプログラム評価の適切性、順調性について、17すべての学部等が肯定的な回答をしている。ただし、13学部等（76%）は「3.どちらかといえばそう思う」と回答していることから、改善すべき点はあることが窺える。
- D Pの達成状況の測定について、約半数の学部等で測定しているが、実施方法が分からない、測定する必要性を感じない学部等が6（37%；教養教育院を除く）あることが分かる。また、すでに実施している学部等においても、ほとんどが卒業要件となる単位の修得をもってD Pが達成されたとみなしていることが分かる。つまり、各学部等においてプログラム評価は適切かつ順調に行われていると判断しているものの、D Pの達成状況を可視化するためのエビデンスが十分に示されていない可能性が推察できる。
- プログラム評価を行う上で不足しているものまたは改善点として、プログラム評価の実施方法や評価方法に関する知識やスキル、情報提供を挙げている学部等が多く、プログラム評価の意義や必要性を学部教員全体に周知することを指摘している学部もある。また、担当者の業務負担の増大、人的支援の必要性を指摘する学部も複数あり、プログラム評価委員会と既存の委員会（教務委員会、F D委員会等）との位置づけの明確化、連携に関する意見もある。

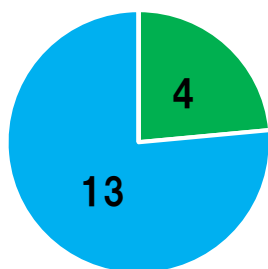
3. 今後の対応

第一にプログラム評価の意義や必要性、技能領域や態度領域も含めて客観的に評価するための具体的な方法について、周知するためのF D等が必要である。D Pの測定について、「D Pを達成するように組まれたカリキュラムに従って各授業が展開されているため、卒業要件に定められた授業の単位を修得した学生はD Pを達成している」という考え方の妥当性や問題点についても同時に共有する必要がある。つまり、卒業要件の妥当性が担保されていることが必要条件であり、たとえば、D PとC Pとの関連、D Pと各科目の内容や到達目標との関連が明確であり、カリキュラムの偏りがなく、各科目の成績評価（到達目標との整合性など）が妥当であることを可視化しておくことが必要である。

また、プログラム評価を行うためのエビデンスとして、徳島大学全体で収集できるものを整備し、各学部提供できる体制を整える必要がある。たとえば、エビデンスの1つとして考えられる全学の統一アンケートの整備（既存のアンケートの統合・整理）を進める。

4. 各設問の回答結果

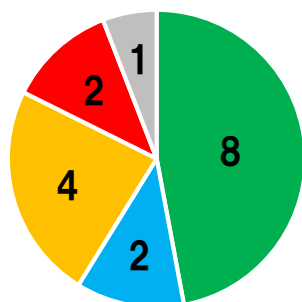
問1. 所属学部（または学科）におけるプログラム評価は、適切かつ順調に行われていると思いますか？



- 4. そう思う
- 3. どちらかといえばそう思う
- 2. どちらかといえばそう思わない
- 1. そう思わない

問2. 卒業認定において学生がDPを達成しているかどうかをどのような方法で測定していますか、または今後測定することを検討していますか？

(1) 測定について



- 4. 測定している
- 3. 現在測定していないが今後測定する予定である
- 2. 現在測定しておらず今後測定したいと考えているが方法が分からない
- 1. 測定する必要性を感じない
- 0. 当該組織は教養教育院であるためDPを測定していない

(2) 「4」または「3」を回答した学部等は、どのような資料及び方法で測定するのかをお書きください。

(理工学部は回答を1つに集約している)

各科目における評価（ただし、卒業時コンピテンシ・コンピテンシー別に評価点を出しているわけではない）、卒業時の自己評価（卒業時コンピテンシ・コンピテンシー別に評価）。
各科目における評価
各学部の教育課程は、教育上の目的を達成するために編成されており、所定の単位を修得し課程を卒業することによりDPを達成していると考えている。
歯学科は徳島大学歯学部歯学科卒業時到達目標コンピテンシ・コンピテンシーに基づき作成した歯学科卒業時アンケートを実施し、評価している。口腔保健学科は、卒業試験や臨床実習評価（外部施設の指導者による評価を含む）に基づき、評価している。口腔保健学科も歯学科同様のアンケートの実施について、検討する必要があると考える。
プログラム評価において、「学位授与の方針に則して卒業要件が策定されているか」を評価している。学位授与方針に則した卒業要件を充足することにより、学生がDPを達成していると判断している。【資料；卒業研究ルーブリック評価表、学修到達度指標】
プログラム評価において、「学位授与の方針に則して卒業要件が策定されているか」を評価している。学位授与方針に則した卒業要件を充足することにより、学生がDPを達成していると判断している。【資料；卒業研究ルーブリック評価表、学修到達度指標】
DPとコースの学習教育到達目標（CP）を整合させた教育プログラムとしている。一方、コースの学習教育到達目標の達成度は、JABEE基準に則って、厳密に計測している。これをJABEEチェックシートの形式で、教員、学生ともに共有できる形としている。このため、卒業要件を満たすことで、DPが達成できるプログラムとなっている。これを補完するために、卒業生へのアンケート調査などを適宜行っている。
カリキュラムとJABEEに所定される要件を満たされたかを確認しています。
現状としては、カリキュラムチェックリスト（学部DPに沿って設定された各コースのDPに対し、各々の科目がどのDP項目達成に寄与するか明示したもの）を基に、卒業研究（卒業論文や卒論発表を各コースDPの基準下で採点・数値化して評価）も含む各科目の成績についてDPを意識して評価し、進級や卒業の判定時に、総合的にDPの達成を確認しています。しかし現状としては、学部DPの各項目に厳密に対応した数値評価にはなっていないので、5の質問において選択肢3を選びました。学部完成により本年度から設置審の縛りが解けたことから、学部カリキュラムや3Pの見直しも検討されており、DP達成度の測定方法についてはルーブリック形式の導入等の可能性も含め、これらの改定と並行して検討していく予定です。

問3. プログラム評価を適切に行う上で、現在足りないと感じている、またはあった方がよいと思うもの（情報、知識、スキル、支援など）があれば具体的にお書きください。（理工学部は回答を1つに集約している）

情報・知識・スキル等の支援（評価方法の提示など）が必要である。
評価を適切に行うスキル等について情報が知りたい。特に診療現場評価、ポートフォリオ評価など、知識領域のみならず、技能領域、態度領域の評価方法について情報が欲しい。
評価を適切に行うスキル等について情報が知りたい。
プログラム評価に係る情報や知識は足りないと感じており、可能であれば支援を受けたいため、今後検討会等で意見交換したい。
大学全体において、各学部にあったプログラム評価基準を設定することが必要である。現在、歯学科についてはコンピテンス・コンピテンシーを設定して適切に評価しているが、今後大学全体の方向性に沿った評価基準に改正するために、新規設定に必要な情報と情報収集のための支援を行っていただきたい。
なし
なし
○プログラム評価についての情報発信が全くなされていないように感じられ、現時点では、プログラム評価についての説明や啓蒙が絶対的に足りていないように思います。プログラム評価がどのようなことを指し、どのようなことをすれば測定できるのか、どれくらい定量的に測定しなければならないのか、その手段はどのようなものがあるのか、何のためにやっているのか、など、具体的なイメージが掴めません。何かの機会にプログラム評価についての情報は発信されているのかもしれませんが、一般の教員や職員まで十分に届いていないのが実情かと思います。よって、「現在足りないと感じている、またはあった方がよいと思うもの」を尋ねられていますが、何をどう答えていいのか見当が付きません。あえて言うなら、プログラム評価自体の説明や啓蒙と思います。
本学他学部や他大学における DP 達成度の数値化法の事例情報など。
1. プログラム評価委員会を構成する人員が足りないと感じる（教養教育院の人数が少ないため）。 2. GPC、授業評価アンケート結果、出席などのデータをまとめる機関・部署が必要（事務方に頼るところが大きい）

問4. 現在のプログラム評価に関する改善点やご意見があればお書きください。

（理工学部は回答を1つに集約している）

総合科学部では、昨年度から教育プログラム評価委員会を設置したが、それ以前は教務委員会及びFD委員会で教育プログラムの見直しを行っていた。上記の経緯から、教育プログラム評価委員会と教務委員会及びFD委員会との住み分けに迷う部分がある。このことから、教育プログラム評価委員会は、全学委員会として設置し、各学部の教育プログラムをより客観的に評価することが望ましいのではないかと考える。
教学 IR の機能強化が必要だが、専任教員や職員のポストがない。
（無回答）
今後検討会等で意見交換したい。
現在、歯学科については、カリキュラム改変を予定しており、議論を行っている。プログラム評価は単年度毎の横断的な計測には向いていない。歯学科の場合は6年間、口腔保健学科の場合は4年間の教育改善の結果をみて、判断する必要がある。前もってアウトカム指標を定め、経年変化の成果を確認しながら、相対的な評価をすることが重要。
カリキュラム設計を行いながら、プログラム評価を実施するといった、一部の担当教員、事務に業務が集中している。
カリキュラム設計を行いながら、プログラム評価を実施するといった、一部の担当教員、事務に業務が集中している。
○問3の回答と繰り返しになりますが、プログラム評価自体の説明（定義、目的、意義、方法、目指すべき状態など）とその浸透および実現に向けての支援が必要と思います。ODPを達成するためにCPがあり、CPに沿ったカリキュラム構成・卒業要件を設定しているので、卒業要件単位を取得していればDPを達成していると認められると考える。○学生委員会では、履修相談室の利用体制について、利用状況および学生アンケートの結果に基づき、相談室の利便性の点から評価を行っています。一方、利用頻度に応じたTA任用の調節は行われているものの、現状で十分な効率性が確保されているのか改善すべき点があるのか判断しきれない状況です。運営の効率性についても評価が必要であるなら、判断資料等をご提示頂きたいと存じます。
現状では特にありません。
現在教養教育院では、GPCの極端に低い・高い授業や、クラス間格差のある授業担当者を対象にその原因を探るためにインタビューを行っています。その基となるデータの分析や、ソートを代行してくれる部署（例えば教学IRなど）を切望します。